

令和6年度 やまがた社会貢献基金助成事業 活動報告書

団体名	特定非営利活動法人まちづくり山形		
事業名	山形市まちづくりの歴史と展望を考えるまち歩き		
助成事業区分	協働助成事業（テーマ希望型）【テーマ：やまがたまちづくり活動支援事業】		
団体の 所在市町村	山形市	事業費	607,809 円
		うち助成金額	523,375 円
事業実施期間	令和6年6月13日～令和7年2月28日まで		

事業目的・実施内容

（事業目的）

山形市は江戸の町から明治期以降の近代化を経て、震災、戦災を受けることなくまちづくりが蓄積して現在の姿に至っていることを、通り、堰、町などをテーマにしたまち歩きを通じて探り、まちづくりについて歴史的な価値を確認する。それを踏まえて多様な視点から今後のまちづくりに関してまち歩きの参加者にも考えてもらい、可能ならば話し合うように試みる。それによってまちとまちづくりの将来について、今後のまちづくりのあり方を歴史的な文脈から展望する機会とした。

（実施内容）

10月に鋳物の町銅町（参加者18名）、11月に山形五堰の御殿堰（参加者15名）のまち歩きを実施した。

事前に、文献資料、地図、専門家へのヒアリングなどによってまちづくりなどの経緯を調べ、現在までのつながりをわかりやすく資料化した。10月の銅町まち歩きの際には、5つの鋳物事業所に立ち寄って直接事業者からお話いただき、11月の御殿堰まち歩きの際には、山大阿子島名誉教授に資料作成と案内をしていただいた。近年のまちづくりの経緯に光を当てて、現在における計画についても情報提供し、今後のまちづくりについて、まち歩きの参加者にも考えてもらった。（御殿堰まち歩き後話し合い参加者8名）。

まち歩きイベントの前に参加者募集するチラシを公民館などに配布するとともに関係する地区の町内会にご協力いただいて配布した。イベントの後にそれぞれの報告パンフレット（A3表裏カラー）を1000部ずつ合計2000部作成し、市内8公民館、20コミュニティセンター、県立図書館、市立図書館、募集チラシを配布した地区の皆様にも、配布した。



事業の成果	まち歩き実施によって、関係する市民等に、山形市内の歴史文化の価値を再認識する契機となった。市内8公民館、20コミュニティセンター、県立図書館、市立図書館に2地区それぞれのパンフレット合計1000部ずつ置いてもらった。南部公民館でパンフを入手した市民から良かったとの電話が1通あった。まち歩き後に行った話し合いで、参加者がまちづくりの大切さを体得できたのか、後に参加者1名からまちづくりの機会につながる電話連絡があった。歴史文化を重んじたまちづくりの確認は、歴史文化を重視したまちづくり計画の創出につながる可能性がある。また街中を歩いて優れた情報を得られる場所の地図などを作成したことで、将来的には観光にもつながる可能性がある。
今後の展望	NPOまちづくり山形が中心になって、まち歩きの企画運営を継続して行うなかで、連携する団体と協働しながら、その他の事業を企画し実行していく。その目的は歴史文化を継承して中心市街地のまちづくりにつなげることである。山形の中心市街地のまちづくりに関して、民間側で積極的に情報収集し、適切な時期に提言するなどまちづくり活動を行い、まちづくりに資する継続的な団体活動を行う。一方まち歩きを健康づくりにもつなげられるようネットやその他情報提供に務める。



団体概要

団体名 特定非営利活動法人まちづくり
山形

代表者 相羽康郎

URL <https://matidukuriyamagata.work/>

令和 6 年度山形県N P O活動促進補助事業
収支精算書

事業の名称	山形市まちづくりの歴史と展望を考えるまち歩き
団体名	特定非営利活動法人まちづくり山形

1 収入の部		(単位：円)
区分	精算額	内容
県補助金	523, 375	令和 6 年度山形県NPO活動促進補助金
当該事業による収入	16, 500	まち歩き参加500円×33人
その他収入		
自己資金	67, 934	
合計	607, 809	

2 支出の部		(単位：円)
区分	精算額	内容
謝金	210, 000	講師謝金
旅費	8, 580	参加者・スタッフのハイヤー代
印刷製本費	111, 597	参加チラシ・配布資料・報告パンフレットの代金
消耗品・材料購入費	6, 534	ビブス・封筒・ラベルシートの代金
通信運搬費	15, 850	郵送費
保険料	4, 002	イベント保険料
使用料	9, 800	会場賃借代
人件費	225, 000	スタッフ賃金3名
(委託費)		
(備品購入費)		
(修繕費)		
飲食費	16, 446	飲食代・弁当代
合計	607, 809	